

令和7年度 第2回こども未来応援会議 議事概要

日時 令和8年3月23日(月) 午後3時～午後4時30分

場所 伊賀市役所4階 庁議室

出席者出席者 富田委員長、南委員、窪田委員、三井委員、松田委員、杉林委員、
船見委員、釜井委員、岩野委員、脇本委員、丹羽委員、葛原委員、
山本委員、加納副委員長、オチャンテ・村井・ロサ・メルセデス委員

(開会)

1. あいさつ

◇出席者の確認(15名)と会議の成立について

◇資料の確認

2. 議題

(1)こども計画に掲げる各施策の満足度等について

◇事務局説明(資料1、2)

委員長 分からないとの回答は、やはり認知度の不足を表している。
特に分からない回答が多い項目は、どの辺りがあるか。

事務局 4-1 から4-5 は、分からないとの比率がかなり多かった。
約4割を超える比率で分からないとの回答があった。
その他の部分について、4割を超えて分からないが多かったわけでは
ないが、非常に分からない比率が高い。あとは、若者の就学就労支援
の自由記述のなかで、分からないという自由記述が多かった。

委員長 このあたりが今後、力を入れるべきところ。
委員の皆さんどうか。

事務局 各項目によって、答えていただく対象を変えさせていただいている。

※※委員 1の1番で、出産できる場所が減ってきているとの回答があった。
人口減少していくなかでもある程度仕方ないこと。
出産できる場が減ってきていることに対して、行政として何かできる
ことはあるか。

事務局 今年度に入り、名張市の産婦人科1つ閉まり、伊賀市でも緑ヶ丘クリ
ニックが閉まり、今、森川医院だけになっているのが現状。
一昨年の秋頃にそういった事態になるということが判明した。
その後、民間医療機関のため、なかなか、私どもが産婦人科をどこか
に誘致してきてというのは、行政には難しい。
森川病院にできるだけ長く続けていただけるように取り組んでいる。

具体的には、三重県と名張市と一緒にあって、森川病院のところに、財政的な支援をさせていただいているのが現状。名張市は、現実的には1つもなくなっているなかで、医療は、圏域。伊賀圏域のなかで、1個しかないというところが、県内でもあんまり見られない事例。三重県と一緒にあって、支援をさせていただいているのが現状。

今まだ、これだけで十分な支援かという、そういうものでもない。今後も、森川病院と連絡を密にしながら、できるだけ長く続けていただけるように支援の拡充を検討していきたい。

- ※※委員 分からないというのは関わっていないから知らない。
具体的に見えてないという事があると気になった。
アンケートのとり方で、こういった修正していかなきゃいけない。
しっかりアピールしていく必要がある。
今後、アンケートをどう取るべきとか、考えていくべき。
- 事務局 分からないというところを、施策として様々な取り組みをしているなかで、分からないという声が多いというところが課題。
今後の参考にさせていただきたい。

(2)子ども・子育て支援事業計画における量の見込みの変更について

◇事務局説明(資料3)

(質疑なし)

(3)保育所等の利用定員の変更について

◇事務局説明(資料4)

委員長 壬生野保育園は、上野地区中心市街地辺りか。

事務局 旧伊賀町地域。名阪国道の壬生野インターを降り、5分ぐらいある保育所。

委員長 伊賀市全体からも非常にアクセスがいい場所か。

事務局 アクセスでいくと、上野中心市街地等もいい。

伊賀市の東部方面、旧の伊賀町や阿山、大山田、上野方面からも名阪国道をご利用いただければ、アクセスのいい場所になる。

委員長 まず1ヶ所で、割と広範囲で、アクセスの良い場所でもあるということ。

(4)伊賀市こどもの権利条例の策定方針について

◇事務局説明(資料5、6)

- ※※委員 権利条例を作った後、作って終わりになってしまう。
将来的にどういうふうにしていくのか。
- 事務局 今回は条例策定と並行して庁内で権利学習の部分と、こどもの意見を聞く仕組みづくりを検討するとの並行して、こどもと大人について、権利学習をやっていきながら、関係課横断的にやっていく。右の青い部分が、その仕組みづくり。広報あるいは、情報提供する場で情報を提供していく、そういう部分の仕組みづくりをしていく。
- 委員長 この条例をもとにして、学習やあるいは、こどもの意見を聞く、この意見表明権という場をより一層推進していくということ。
来年度は12月の議会への議案提出を目指して、こども未来応援会議としては、中間、最終の説明をそれぞれ、6月10月あたりに予定している。こちらで、委員の皆様意見を聞きながら、徐々に、この条例を作っていくということ。
- 事務局 先程、策定スケジュールで、今回こども未来応援会議のところの予定が若干ちょっとずれている部分がある。策定方針は、本日まで説明させていただいた。5月ぐらいに、一旦素案を説明させていただく。それを受けていろんなご意見、こどもたちの意見を聞いたりそういったところを加えながら、中間案については、7月ぐらい。そのようなスケジュールになっている。
- 委員長 回数が1回増えるのか。
- 事務局 来年度は、通常であれば年2回くらいだが、こどもの権利条例に関わる部分が増えてくる。合計4回ぐらいの審議会を想定している。

(5)その他

・こどもまんなか応援サポーターについて

◇事務局説明(資料7)

(質疑なし)

・こども政策課インスタグラムの開設について

◇事務局説明(資料7)

(質疑なし)

・スマイルハウスプロジェクトについて

◇事務局説明(資料8)

- 委員長 JAいがふるさととは、チラシにあるような物があるのか。
- 事務局 JAで、ボードゲーム等を準備いただき、その居場所のなかで、置いて自由に遊んでいただけるような形で設置していく。
- ※※委員 見学会は、どなたでも行っていいのか。
- 事務局 良い。
本格的に稼働すると、学校の校区の問題がある。そのあたりは、一定制限がかかってくる。そういったことも含めて我々としては、広げていきたい。
- ※※委員 最初のスタートは、JAからではあるが、比較的にずっといける状態になっている。資料にあるようにモデル化、企業連携を書かしていただいている。まずJAでやっていただいて、伊賀市の全域に広げていきたいという思いがある。
- ※※委員 放課後児童クラブや第3の居場所など、どう整合性をとっていくのか。初歩的な質問になるが。
- 事務局 放課後児童クラブや第三の居場所は、今現在もこどもの居場所として設置している。今回、実施しようとしているのは、こどもたちが、来てもいいし来なくてもいいというような形で、昔の駄菓子屋的なイメージものを設置できないかなというところがスタート地点としてはある。こどもが、行かされるとかではなく、自由に来れるというのがまず第1。
- 委員長 実際に始めたらたくさん問題が出てくる。
どうしても大人や年長者の見守りは、上手く回っていかない。それに駄菓子屋は、こどもの文化にとっては流行の発信地であった。ただ、製品が置かれているだけでは、駄菓子屋的な機能も十分発揮されないこともある。おそらく場づくりも含めて。
先程のこども真ん中応援サポーターも含め、並行させながら、そういった見守りをできるような人たちをはじめ、いろんなアイデアをこどもと一緒に地域の人たち、あるいは企業の人たちと協力し合いながら進めないと上手くいかない部分がある。
- 事務局 課題も色々出てくるかもしれない。考えも踏まえながら、事業を進めていきたいと考えていくので、参考にさせていただければ。
- ※※委員 JAの取り組みについて、地域食堂をやっている。
- 委員長 月1回の枠で、どのように継続していくのか。
この会は、伊賀市こども未来応援会議となって初めてか。

- 事務局 令和6年の10月からこども未来応援会議。
1年半、皆さんにお世話になった。
- 委員長 以前の子ども・子育て会議の違いとしては、若者会議の方、高等学校の先生等、学校の先生に来ていただいている。 ※※委員どうか。
- ※※委員 テーマについては、高等学校の年齢よりもさらに下のところ、勉強させていただいた。
- 委員長 ※※委員どうか。
- ※※委員 一番は、こども計画の策定に関われたこと。自信にも繋がった。
若者会議は伊賀市が大好きなメンバーで活動している。実際に伊賀市に熱い思いを持っている方が集まっておられることに感銘を受けた。これからも、自分のできる伊賀のこと、こどもためのことを頑張っていこうと思う。来期からは参加することはできないが、これからも自分にできることをやっていこうと思う。
- 委員長 では※※委員。
- ※※委員 いつも必ず障がいのあるこどもたちのことも、課題に挙げていただいていた。先程のスマイルハウスプロジェクトの話のなかでも、※※委員から、障がいのあるお子さんのことについても触れていただいた。障がいのあるこどもたちの学びであったり生活の場についても挙げていただいて、非常にありがたい。
こどもたちの数が、今、伊賀市も含めてどこの地域でも減っている。例えば特別支援学校へ通っているこどもたちは、年々増加の傾向にある。そういったところでの生活を支えていったり、また育てを支えていくという視点では、減少とはまた逆に増えている状況というものも、知っていただき、そして、何かできることかを考えていただきたい。
- 委員長 何かこの流れでぜひこう話したいというのがあれば。
- ※※委員 東部地区は、盲人ホームがある。盲人ホームと、どう関わっていくのか。防災などの視点で、皆さんどうか。
- ※※委員 盲人ホームを運営している社会事業協会に声をかけたら、どうか。
- 委員長 伊勢の保育園では、こどもたちが栽培している、例えば野菜や味噌を使って、月1回レストランを開いている。その際、高齢者を呼んで、月1レストランを開いている。また、いなべ市で、月1回、地域の高齢者と一緒に園庭で体操をして、そのあとに、年上の子たちが、お茶を一人一人高齢者に配っている。そこに責任や貢献しているという意識が育ち、高齢者にとっても、こどもたちとともに、暮らしていることが感じられる。
- 委員長 以上でマイクを事務局へ返させていただく。
- 事務局 以上で、第2回伊賀市こども未来応援会議を終了とさせていただきます。
(閉会)